

## 令和元年度 第3回あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議 摘録

1. 日時:令和2年1月21日(金) 13時00分～15時00分

2. 開催場所:麻生区役所4階 第1会議室

### 3. 出席者

#### (1)委員

吉松委員長、村井委員、今村委員、伴委員、伊藤委員、原委員、森委員、吉垣委員、大川委員、河村委員、依田委員、日暮委員、永井委員

#### (2)事務局

高階事務局長、若尾地域みまもり支援センター副所長、端坂地域支援課長、石原児童家庭課長、大和田高齢・障害課長、平田保護課長、田中衛生課長、安藤企画課長、高石危機管理担当課長、野口生涯学習支援課長、森田地域ケア推進課長、白勢地域ケア推進課係長、高橋地域ケア推進課主任、石塚地域ケア推進課職員

### 4. 次第

#### 1 開会

事務局長挨拶

事務局説明

委員長挨拶

#### 2 議事

##### (1)第5期麻生区地域福祉計画について

①進捗状況について

②第5期川崎市・区地域福祉計画・平成30年度評価について

③第6期 地域福祉計画策定スケジュールについて

④麻生区地域福祉計画を推進する上での課題の解決策に関する意見交換

##### (2)地域包括ケアシステム構築に向けた取組について

あさお希望のシナリオプロジェクトの概要について

##### (3)その他

①認知症講演会～認知症の人から学ぶ思い・願い～の開催について

②地域自己診断ツール「ちいきのちからシート」を活用した地域づくり報告会の開催について

③年度切り替えにおける団体推薦委員の交代について

#### 3 閉会

#### 【配布資料】

会議次第

委員名簿

座席表

あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議開催運営等要綱

資料1 第5期麻生区地域福祉計画進捗状況

資料2 第5期川崎市・区地域福祉計画・平成30年度評価

資料3 第6期麻生区地域福祉計画 策定スケジュール予定

資料4-1麻生区地域福祉計画を推進する上での課題について

資料4-2意見交換 記録シート

資料5 あさお希望のシナリオプロジェクト

5. 公開・非公開の別                    公開

6. 傍聴者                                0名

## 7. 議事摘録

### 1 開会

### 2 議事

#### (1) 第5期麻生区地域福祉計画 ①進捗状況について

資料に従い、事務局 地域ケア推進課主任より次の取組について説明(資料1)

- ・取組 11「地域課題解決につなげる地域人材の育成」
- ・取組 24「成年後見制度への対応の充実」
- ・取組 36「児童虐待相談支援体制の充実」
- ・取組 38「認知症にやさしいまちづくりの推進」
- ・取組 41「災害対応力の強化支援」

依田委員 説明項目ではないが、取組42番、麻生区徘徊高齢者 SOS ネットワークの充実について、立ち上げてから10年以上経っているが、あまり進捗がみられない。本事業は、対象者の情報共有にとどまるので、その後、徘徊が発生した際の対象者保護にまで、街ぐるみで取り組めるようになると良い。次期計画にも引き継がれる取組だと思うので、町田市や稲城市で行っている防災無線による情報提供の再検討など、徘徊した方を保護できるような取組に向け、是非検討をお願いしたい。

事務局 個人情報保護の観点から、広く一般の方に対して、行方不明の情報が提供されることがないまま、現在まできている。ただ、関係機関や自治体への連絡体制は年々拡大してきており、充実するよう進めている。  
市では、メール配信、アプリによる登録者に向けた情報提供を進めていると聞いている。所管課に意見を伝え、早期発見に向けた対応ができればいい。

依田委員 市によるアプリの検討は、2年間で6社を検討しているが、結果を出すスケジュールが設定されていないとのこと。また、徘徊した方を保護できる取組への要望は、警察関係者からも寄せられている。ぜひ実用的な検討を。

伴委員 今の話に関する情報提供だが、首にかけるタイプのGPS端末がある。月額2,800円程で、URLにより地図を確認し、誰でも探せる。使い勝手が良い。  
取組24番の、成年後見制度の充実について、身寄りのない認知症の方＝後見人をつける、という思考の方や、そういった対応をする施設が多い。全てが成年後見制度に向いているわけではないので、細かい勉強をしてほしい。また、他区で市長申し立てに関する相談をしたところ、混んでいて1年待ちと言われたことがある。それでは意味がない場合もあるので、対策もしていただきたい。

村井委員 麻生区徘徊高齢者 SOS ネットワーク事業について、個人情報をやり取りせずに本人の特定ができ、その時点で初めて個人情報を開示する、そういったいいアプリが出ているので、積極的に普及促進するという覚悟が必要。  
ただ、それ以前の、見守りの地域づくりも併せて必要。ご近所ネットワークや自治会などにより、相互に見守る関係が浸透していく区であってほしい。事業者

頼りの見守りも必要だが、町会・自治会の力を借りて身近に見守りつつ、異変があった際に、報告や連絡ができる相談体制を作っていくことである。

横浜市鶴見区では、民生委員をサポートする見守り支援者を明確に位置づけ、区長が任命している。民生委員は重篤な気になる方のみを見守り、見守り支援者はそれ以外の方を月に2回ほど確認する。見守り支援員は400人程いるとのこと。

こうした行政側のバックアップ制度について、麻生区独自でも可能かもしれない。地域包括ケアシステムの一環とも言え、地域福祉計画の中で、こういった部分でイニシアチブを取っていけるのではないか。防災力の向上にも繋がるので、防災対策として、セットで検討していくことが有用である。

成年後見制度の対応の充実については、一人ひとりに寄り添い判断しなければいけないという事実と同時に、制度が殆ど使われていない実態がある。しかし利用を必要とする人は大変多い。利用時に、市長申し立てまでいかずに済むような、身近にできることの好事例を集めたい。

「自力での判断が困難な方々の地域生活をどのように支えるか」という問題は、地域福祉の次のテーマの中核になる。個人情報保護法においても、本人に後見人がいない限り、どんな状態でも本人の同意が必要とされている。認知症になる前に、後見制度に対する自分の意思を表し、その時点の意思を個人情報の取り扱いについても活かすことができる、そういう普及促進が必要。

(1) 第5期麻生区地域福祉計画 ②第5期 川崎市・区地域福祉計画・平成30年度評価について  
資料に従い、事務局 地域ケア推進課主任より説明(資料2)

- ・川崎市社会福祉審議会地域福祉専門分科会にて、区計画を含んだ川崎市地域福祉計画の平成30年度評価がなされた。
- ・区計画については、第1回会議で確認したものに、計画の理念を加え(下線部分)報告した。

依田委員 事業の達成度は、何段階で数字が大きいほど達成度が大きいのか。

事務局 5段階で、1が目標を大きく上回って達成、5が目標を大きく下回った、と数字が小さい方が、達成度が大きい。

吉松委員長 一般的には数字が大きい方が評価が高い印象を持つ。説明がない人が見た時に、逆の印象を与える可能性はないか。

事務局 予め設定された事業目標があり、目標通り達成された場合は3で、それよりも成果が上がったものを2、大きく成果があがったものを1として、5段階評価としている。今回、市の評価と区の評価を抜粋して掲載したので説明が漏れてしまった。今後示す際には、その他指標についても、説明を加える。

(1) 第5期麻生区地域福祉計画 ③第6期 地域福祉計画策定スケジュールについて  
資料に従い、事務局 地域ケア推進課主任より説明(資料3)

- ・現段階の予定のため、時期や内容は変更となる可能性があるが、来年度は4回開催となる。

依田委員 本会議には、柿生地区社協の代表として参加している。計画策定の際、意見として団体の皆さんの声を集めることが必要なのかと思うが、そういった役割を想定されているか。

事務局 各委員は、それぞれの団体からの代表として出席しており、基本的には各委員の知見や経験に基づいて意見をいただきたい。ただ、多くの方からの専門的な意見は、計画の内容の充実にも繋がるので、可能であれば組織の方々にも情報提供をし、とりまとめる時間的余裕をもって進めたい。

#### (1) 第5期麻生区地域福祉計画

④麻生区地域福祉計画を推進する上での課題の解決策に関する意見交換について  
資料に従い、事務局 地域ケア推進課主任より説明(資料4-1、資料4-2)

- ・目標設定については、次期計画策定時に本会議にて検討する
- ・地域包括支援センターについて、運営協議会におけるチェック機能強化については市が検討していく。その上で区としては、地域包括支援センターへの個別支援の他、全体の課題と考えられる点を補うよう、運営支援を行っていく。
- ・災害時要援護者避難支援制度について、制度自体は市の検討が必要だが、区としては地域において要援護者支援の意識が広がるよう、今後も取組を進める。
- ・民生委員児童委員について、活動をサポートする仕組みが必要である状況を踏まえ、市で検討していく。サポートする仕組みの一つである「福祉協力員制度」を導入している、川崎区渡田地区民生委員児童委員協議会と、麻生区柿生第3地区民生委員児童委員協議会が今後交流会を行う予定。
- ・地域に情報を届けるためのネットワークについて、当該課題が解決した地域を、「適切に情報が届く支え合いネットワークのある地域」として、事務局で設定した。この地域の実現に向けた提案を、各委員からいただきたい。

吉松委員長 在宅で医療・介護を受ける方に適切な情報をどう届けるか。国も医師会も在宅医療を推進している。在宅で診るにあたり、生活を支えるための多職種の連携が必要となっている。麻生区医師会でも佐野医師(在宅療養調整医師・あさお百合クリニック院長)が中心になり多職種連携の会を開催しており、そこに、行政(高齢・障害課)が参加し、その中でお互いに顔の見える関係を築いている。何か効率的なシステム、というわけではなく、まずは、顔の見える連携を目指すことが大切である。

伴委員 社会福祉士として地域で活動しており、隙間的な相談事(虐待問題など)が入ってくる。区の中に、資格者である社会福祉士が地域で活動できる組織があると、そういった問題を支えられる。また、高齢化が進む各活動団体を支える役割、在宅医療の現場での役割などもあり、そういった専門家としての支え手、繋げる役割の位置づけが地域にあるといい。

伊藤委員 高齢化に伴い増えてきた一人暮らしの高齢者が、外に出て集まり、隣近所と色々なことを話し、困り事はみんなで解決し、地域で行動していることを伝えられる場所づくり、仕組づくりとして、月一回のお茶会を実施している。住み良い環境づくりを目指し、まず、自分の周りから自分を中心にできることをと思い、始めたところである。

森委員 対象者は様々だが、その8割が高齢者なので、高齢者に特化して話す。取組44番「ひとり暮らし等高齢者見守り事業」を民生委員では実施しており、その情報をもとに見守りのランクを設定し、訪問する体制をとっている。しかし、調査対象にならない等の理由で、民生委員に情報が入ってこない人もいた

め、地域、自治会での見守り体制を確立してほしい。その中で民生委員の立ち位置を確認し、関わり、共有していくことを考えている。

また、サロンや老人会など、地域での情報交換や交流の場、繋がり支え合えるツールを増やすことが必要。社会福祉協議会が行う配食・会食会は、安否確認、近況把握ができるので続けてほしい。

これからは、特定の人が見るのではなく、お互いに見守り合う意識を高め合うことが大切。制度化された訪問員や協力員について、他の自治体での導入例も聞いたので、考えてもらいたい。

原委員 皆さんと少し活動が違っているかもしれないが、市民に活動の場、交流の場を提供している。新しく市民活動を始めたい方の相談にもものっている。区内団体を横断的に紹介するため、麻生市民館・区社会福祉協議会と連携し、見える化したPRもしている他、健康づくり講座等で地域の仲間づくりの機会を提供している。

麻生区では地域活動をやっている方がとても多いが、それが必要な人、関心のある人に届いているかが疑問である。麻生区でやっていることが一つのテーブルにのれば、そこを見に行くだけで自分に必要なものをチョイスすることができる。これは、「まちのひろば100」に繋がる。人と人が繋がる、人と団体が繋がる、団体と団体が繋がるのが、いい地域の姿だと思うので、それに向けてやっていきたい。

大川委員 地域包括支援センターは高齢者のよろず相談窓口として機能しているが、ただ待っているだけでは何も解決しない、どんなことが起きているかも分からない、そういった職場である。そのような中で、まず個人のお宅に行き、また地域住民の方の趣味活動やサロン、町会の集まりなどに参加し、地域包括支援センターのことを知ってもらうことが、どの時期においても大事である。

発信したいことは沢山あるが、まずは、地域住民の困っていることとできていることを確認し、そしてニーズをつかむ努力が大切。そして、必要な情報を伝えること、人と人・人と団体との橋渡しをすること、地域の方の力を借りて、一緒に住みやすいまちづくりをしていく一員であるということ、こうしたことを大切にしながら関わっていきたい。

永井委員 適切に情報が届くとは、具体的にどういうことかと考えた。情報が届かない人とは、地域・情報・人から孤立した人かと思う反面、情報が届いている人も実際にはいると思う。地域に情報が届いているかの現状の評価をし、解決策を考えていくのがよい。

現状確認の方法としては、町内会自治会のいくつかにモデルとしての調査協力をお願いする他、区役所や社会福祉協議会での聞き取りが考えられる。また、孤立した方が最初に接することが多いと思われる地域包括支援センターに協力してもらい、本当に何の情報もなかったのか、もしくは、地域の誰かが教えてくれたのかについて確認し、情報発信者がいるのであればその人に情報を提供していけばいいと思う。

依田委員 解決策としては、二つと考えている。

まず、一つ目として、“地域の困り事を解決する場”を常設することが大切。小地域のプラットフォームとして、困り事を出せ、困り事が集まり、困り事を解決し

ようと考える場を常設したい。そのために、行政に小地域に関する緩やかなガイドラインを設定してほしい。その際、地域包括支援センター、民生委員児童委員協議会、地域みまもり支援センターの保健師エリア、障害者相談支援センターとの整理が必要である。また、地区社協そのものの在り方を進化させる必要がある。川崎区は地区社協が10地区、他区は5～7地区であるのに対し、麻生区は2地区のみであり、小地域を考えるのは難しい。

金井原苑は2020年度、包括を中心とした常設のプラットフォームを試行的に実施する。宮前区の野川セブン(NPO法人すずの会)が中心になり開催する地域ネットワーク会議のやり方を真似し、月に1度の常設で、医師や事業者を含めた関係者が集まる、支援活動をする地域の方が多く発言できる場とする。そこで出された困り事の一例が、全体へと繋がり、それを拾っていく。こうした常設プラットフォームを作っていく。

二つ目は、“縦割りを防ぐ”ということ。発信元が自分のことしか知らずに発信すると、受け手はとて混乱する。行政は関連する部署同士が、文字だけではなく体験的に知ることが大切で、日々情報交換できる仕組みがあるといい。住民同士は、様々な取組の際に互いに知り合う意識をもっていけるが、「あさお福祉まつり」や「まちのひろば」など大きな場で、縦割りにしない仕掛けを入れていくことが必要。また、施設や社会資源同士を繋げる役割を区社協に望みたい。

日暮委員 本会議には麻生東地区社協の立場で参加しているが、母体は町会の推薦であり、町会の役員もやっていた。その上で、この課題に対しては町会の協働が必要だと思う。地域みまもり支援センターだより裏面に掲載されている「金程富士見会福祉コミュニティ活動」について、大変素晴らしい取組である。町会は、日常的に生活に密着した仕事があり、役員の方は忙しく、また福祉関係で対応を迫られる部分も増えてきている。その中で、災害時要援護者避難支援制度やあいさつ運動、コミュニティカフェなど、福祉だけの体制を確立したことが素晴らしい。これを他の町会にも示し、行政からも支援することで、こうした機運が広がれば、本委員会で検討したことが生きてくる。いい取組を広げ、できるところから真似する、そういった機運を高めることが、情報を細部まで周知させるための大きな手段だと考える。

河村委員 麻生区地域自立支援協議会の代表だが、所属はあさお基幹相談支援センターという組織で、障害のある方の相談、加えて地域づくりについても受託をしているので、本日はその点の活動について紹介したい。

宮前区のフレンド神木地域包括支援センターと、地域で元気に活動している方々が中心となり、「大文化祭」という名称で、お店を出している方や活動している市民団体が一堂に集まり、地域の方々と楽しむ、地域における顔繋がりのお店の機会を作った、という取組がある。コミュニティづくりの一つとして、とてもいい取り組みだと思うが、高石地域包括支援センターから話をいただき、麻生区でも4月頃に、千代ヶ丘地域で実施する予定で話を進めている。千代ヶ丘でお店を出している方全てに声をかけて出店していただき、子どもから高齢者まで全てに声を届け、出会う場を企画しようと思っている。ノウハウができあがるので、これを麻生区内で順々にやっていく気持ちで進めたい。これが、情報が届く一つのネットワーク作りにもなると思っている。

吉垣委員 子ども関連ネットワーク会議の代表だが、母体は民生委員児童委員協議会主任児童委員なので、主任児童委員の活動を紹介したい。

主任児童委員は、妊婦さんから乳幼児、18歳までを担当している。年1回、乳幼児対象の主催行事を行っており、その時に、行政と社会福祉協議会から子どもに関する情報をもらい、参加者に発信している。また24校ある区内小中学校を訪問し、その際に主任児童委員、民生委員児童委員のチラシを配布しながら、顔の見える距離での活動を行っている。

他には、参加している色々な会議で得た情報を、自分の所属している団体で話し、情報を共有している。私の話が各委員に届き、そこから各委員の友達や所属するところに情報が届くと思う。こうした些細なことを少しずつでも引き続き行っていきたい。

また、赤ちゃん訪問員をやっているのも、その際に民生委員児童委員協議会が主催している子育てサロンのチラシを持っていき紹介している。それも一つの地域への情報提供だと思う。今後も自分なりに少しずつやっていきたい。

今村委員 まず、麻生区 Twitter を充実させてほしい。通常の講演会等の告知だけではなく、緊急時に的確に市民にダイレクトに情報を届けられるツールとして活用してほしい。昨年大型台風時に、土砂災害警戒区域においては警戒レベル4(避難勧告)となったが、麻生区 Twitter には投稿がなく、避難所の開設や道路について全く分からない状況だった。川崎市危機管理室 Twitter のリツイートに加え、麻生区の独自情報もいただければ区民は安心する。

高齢者は Twitter を使っていないかもしれないが、離れて暮らす家族が確認し、情報共有できることに加え、必要な行動を促してもらうこともできる。また、認知症の行方不明者などに関する情報や、その他気になる情報も、掲載する場所があるといい。誰がツイートするかという点は、簡単ではないが、システムがあることで町にいる人々が行えるといい。

次に、町内会・自治会の回覧板システムを有効利用するといい。情報を至急伝達するには不向きだが、確実に回覧はされている。私は、表紙のフォーマットを作成し、特記事項欄を設けここだけは見たいポイントを班長が記載できるようにした。今後、ハザードマップを目につく位置に張るつもりである。現状は一方通行の回覧板だが、避難の際に声をかけてほしい世帯を確認するなど、住民の声を集める機会にも活用できたらいい。その他、回覧板を利用して住民にアンケートをしてもいいと思う。例えば、この一年間のなかで自治体が開催したイベントの中で役に立ったものは、という問いで、直後のアンケートにはない感想を評価できる。区内の学生に協力を得て、地域の情報動画を制作し、情報提供する。それをアンケートと連動させるのも面白いと思う。

「対象者ごとの有効な情報発信方法などを、全体的に評価・確認できるといい」という意見に関してだが、情報伝達の出入口を確保できている場合、必要そうだが結びついていない場合、必要であるにも関わらず知られていない場合、ということ項目ごと、分野ごとに考え、重点的に取り組んだ上で全体を網羅する方が合理的である。必要であるにも関わらず知られていない方への情報伝達の一例として、小田急線登戸駅女子トイレの洗面所に設置されている「妊娠・出産に悩んでいる人向け」「DVに悩んでいる人向け」というカードがある。昨年気付き、今回本会議に参加するにあたり改めて行って見たところ、カ

ードが随分減っていた。直接的ではない、一つの支援方法だと思う。

村井委員 支え合いネットワークのない地域では、情報が適切に届かない。各委員の話からも、人との繋がりがなければ情報は届かないこと、人と出会い触れ合い、相談を受け様子をみた上で必要な情報が取捨選択され届いているということがわかる。それならば、まず、人と人との繋がりがコミュニケーションを取る場を作ることが最優先であるということが言える。

身近に出会っている人が、相談を受け、その相談事がより専門的な機関に申し送られるようなシステムを作ることが必要。

今ある触れ合いの場所(イベント・定期的な活動の場、人が集まる場)に、相談と情報提供の機能を徹底装備するだけで、大きくアップグレードする。

社会資源情報に関しては、くらしの手帳のような情報誌を定期的に発行できるといい。

## (2) 地域包括ケアシステム構築に向けた取組について

あさお希望のシナリオプロジェクトの概要について

麻生区役所企画課 安藤課長より説明(資料5)

- ・川崎市の「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」である、今までとは違ったやり方で市民や地域の繋がりを作っていく必要がある、という考えを受けて、各区が特性に応じた取組を進めている。
- ・麻生区では、10年後に向け、気軽に区民が集える居場所が至るところにあり、顔の見える関係がある仕組みを目指している。そのために現在できることとして、次のとおり2つのテーマを決め、区民と話していくこととした。「地域のプレーヤーになろう・育てよう」は、10年後に活動する若い世代の掘り起こしを念頭に、地域活動に参加してもらうきっかけ作りを、イベントなどで開催するもの。「地域のことをもっと知ろう・つなごう」は、区民が求める情報と入手方法を話し、地域資源を可視化するためのアイデアの実践を考えていくものである。
- ・第1回キックオフミーティングへの申込者は、70名を超えており、令和2年度末まで月1回程度開催し、区民がアイデアを出し、その実現についても考えていくやり方で進めていく。

村井委員 (会議全体を通じて)

皆さんにご発言いただいた内容については、事前に事務局と打合せをし、本日の会議を迎えた。地域福祉計画におけるPDCAサイクルを回す上で、計画(P)と実行(D)はしているが、それを評価(C)し改善(A)に繋げていくための根拠を積み上げたいということで、今年度は、委員の皆さまから取組に対して言及してもらう機会を増やし進めてきた。これまでやってきた中で最も内容が濃く、いい会議になっており、委員の力は凄と思う。こういった議論を積み上げ、委員の皆さまが取組を通じて区民のために色々な力を発揮することで、素晴らしい会議になっている。今後もこういった会議であってほしいと思う。

## (3) その他

事務局から各事項について説明

3 閉会 15時00分閉会